



士部集



西と人東國よりわたりて千載集勅撰
ありと傳へ上法一々を記して也通法師
にりあひたり勅撰入るるともひ々ふりや
撰處一と洋款もわたり入るるとりたり
略を記入るるとも同くあれはるると
りりきとてとてとてとてとてとてとて
よりしとてとてとてとてとてとてとて
乃事より友白國うると撰集乃沙法あり十
とをを記しつとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
筆一移るるとてとてとてとてとてとてとて
高きはつとてとてとてとてとてとてとて
東國より記したるらんしとてとて

享和二年春二月

み海





三日月集

白圖撰

花きりやききさめひらなまきれあま
本輪院とくくやきとく色無乃る翁
み寺に廻々し

空とあるはくまも似てとらの月
かへそらあせりねしりふ五宗坊本
とらふらふはきとやかりとらふ月
塚とせん葉くらそれとらふ千のみりき
のうらりて尾破とる葉はりり
摺じうまうに人そむとらにすこらり

白雲山

る小侯あ乃た登い法華乃信貴長
若きりあると人のあくときうりく屋不
と興し小堂佛堂みりしけふりうう
しり庭中の松柏あうと得垣印乃風
色うし庭をとりしうあ西おとて入
きすらるるや

と羽さひき十の奥り

こり月ふういほさめけよ二の月 士朗
田守うやうり夕くれの松 曉堂
きくれの道せ入のかさなりて 萬成

あ乃新を引くはきり
あれくの落てさうき胡部 岡毛
さうさうやうにえあう若草 岱青
あ乃あき抄乃あうあ老入松 他部
あ乃あけくし法陽乃あ 兼漢
あ乃あささうくはきり 茶雷
あ利波の衣けくし 紀鳳
あ乃あささうけい後不あはし 女汝
あ海堂乃らきかあ月 白岡
きくしと風さきむしあ 羅城
あ崩しとあさる長侯 朗

やりしつゝとらやう坊さんつらや
 りら隈しきむらきつらき
 菅公乃作とらけし花さけい
 去早あり知とらきく魂のこ
 うす早とらきくしきふとらけり
 山城とらに活入とらとら
 花面とらとらけしとらとら
 ありとらとらとら新草の中
 名ほる時とらとらとらにとらとら
 陣屋乃とら六とらとらとらとら
 大宮司の名けとらとらとらとら

青 萬 輅 毛 漢 郎 國 雷 鳳 汝 朗

のし引むとらとら華乃とらとら
 男山とらとら美の小雨とらとら
 世海とらとらとらとらとらとら
 有つとらとら吐息とらとらとらとら
 花の船とらとらとらとらとらとら
 らとらとらとらとらとらとらとら
 乃乃とらとらとらとらとらとらとら
 くつとらとらとらとらとらとらとら
 又とらとらとらとらとらとらとら
 ちとらとらとらとらとらとらとら
 風雅とらとらとらとらとらとらとら

城 萬 輅 毛 骨 郎 朗 汝 國 漢

風やらふをわさむすめ也人
こころやふかき足は青の園イナ一之

かきまひし 枯尾花

えささうちをわさむすめ枯尾花 草人
風乃尾花をわさむすめ折ふき イナ 伯先
ひささうちをわさむすめ枯尾花 エト 蘭水
うれあふ顔とさうわさむすめ サキ 胡隼
枯乃乃ひさかきうさき戸いふ サキ 許風

冬月 水鳥

あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 李臺
ふもれ月うさく人乃あつち サツ 巴水
あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 大ツ 葛齊
あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 大ツ 武昌
あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 大ツ 啓甫
あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 大ツ 花叔

雪 及び

あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 春曉
あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 重厚
あつちをわさむすめやうさうさ冬乃月 エト 左琴

雪つむやうきまらふ人よ竹の奥
人よほつておきぬふりゆりゆりぬ
掃きよきとぬきぬけりてぬの降
ゆきぬ友たきぬきぬきぬきぬ
うきぬきぬきぬきぬきぬきぬ
きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

蘭 匡
希言
南陽
庭南
梅回
春蟻

落葉 氷

霜 冬花

戸にまきわたらまきわたら
夕暮や落葉まきわたら

窓 巴
大ッ 龜 梁

小男麻乃うらりやうらり
くさくさの水よりゆきうらり
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきのうらり何とまきゆきゆき
雁乃啼ゆきゆきゆきゆき

冥也
大 蕪
万 悠
長 齊
魯 厦

冬 五 枯野 雜

ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

青 岡
青 以
きと女
枯 石

げくやあらん雪れ中ひきの水 猪末

孔子盗跖一塵埃

履くうぬ人さくもよこまをれや 成美

寛政四十一月八日奥行

冬れさうつわさくも都一をり 白圃

日へきくくしとあ乃うきくら 松青

そくそあ乃あじのうとさの越て 士朗

皮茸うくあはひのあうーき 徐英

孫らきふこ路りとあさる月の人 大阜

海渚はうれし 草経乃總 鬼明

うけはのりなるゆらぬのまん 騏六

ふ禪一あまの火とふおき 青圃

款くやうくくあ徳り林 朗

書くさうも二の所はとやたつれと 英

うくひそふ他くそあえんまふ 阜

すんこわとあひれまをる展れく 明

はくさくはらうん宇は山の霧 六

あきき小籠の水とあうあやり 圖

くよくし乃身もけい七十 青

ちまへくく不刃換のうもひらく 朗

歳旦

春ふれいまのちりぬり奥の家松平冬花

御路乃馬糞と稀ちり
るものちりとちりるはちり

口香乃ちりえゆちり十州
元日の井一二りのちりしし文五

梅柳 春水

梅と月やこれ同五尺けりし 岳幣
式うのちり梅の花を十邑
おのちりのちりのちり兆雲

おのちりのちりのちり兆雲
おのちりのちりのちり兆雲
おのちりのちりのちり兆雲

ひままのちりのちり青阿

鳥花

桂五
巢兆
雉河
北鳳

あつれ啼ゆせり松乃うせ
うひそふちうくうすむ措うか
はうろ空えのそこのふえぬ
月もりも花れ中をりうのふ
まの月乃ねらきもそおのらうら
ともも花もさう月乃ねらうら
花もよけしそけいふの家お
曙乃そぬり上るもねもさ
月花の夜いむりまき凡持水
さく花とさうや祥よむせ
半七角ははるあられをり

五雄
琴波
柳菰
大魚
天老
吳来
物知
虎杖
騏六
方翔
如毛

くさくさ霧れ雲をりうさ

くさくさ霧れ雲をりうさ
冷き乃りあつれも花のあ
さくは日さうくさくさ
一とせのこささうのぼる
よらううくはらうら
こくさ乃若れくさくさ
花二日けらうおさうあ
さうりらうわかいらうり
らくさくさきまられうま

玉江
丈雲
猿左
草龍
百席
徐英
素卿
樗堂
椿堂

春雨 かすみ

けふのなやそはあまの雨ふり
 まるる花もきりんのほの内
 とひくふあかりやまのまの
 けふはなごもりふらんまのま
 朝のそと万葉村のあまのりか

蕉雨
 双鳥
 かり女
 真襄
 大魯

すしれ 降雁

今がーそくくもらふ董草
 秋うきけく淋くもすしれ
 雪の月と花ぬそくもらふ
 ぐつふもときけくさくけく
 雁うくお日あくくもらふの朝暮

一茶
 延之
 布舟
 桂裏
 閑叟

春月 まさ風

色あう花よすくまよけく乃月
 ころけよの月よも雲乃からく
 あく草よふそりのへぬすまの月
 馬肥て那ふく尺雲の月花火
 ま乃月結凍の水小くり
 ゆふそくとおく出たりま乃月
 終るくもく君よもはる春月

魚堂
 雲帯
 龍君
 可董
 萊彼
 若人
 蘆涯

くまのふもよみかきつるまの月
 かられさふゆるる山ありまの風
 美月のちりつくと吹く止まなり
 ぬ梅小徳されしとてふれらる

葛井 士峯 柳涯 卧英

雉子 暮春

けらと出しきりきりう家
 雉子うーおふしけのうとくまる
 の市乃かりあもえとて雉よけり
 兼へけりうとてしうそくまぬら
 大由ふよみいけとていれふかり
 けらと出しきりきりう家
 ちとてあやう路の川きりきりえ

東水 射道 喚之 春頃 吐文 双南 墨山

雑

正月乃りそとれそあつるる夜うみ
 淡ゆきふあ野とからし門乃地
 とかしくん依りきりうをまの山
 ひりりるあつるるん松の花
 岩よりく淡道るんやゆまらけ
 野下アア田面えんる春丹
 葉は花のつりまてけしきさるは後

了國 嵐外 可考 泉阿 幾久成 定雅 素外

さくたなまゆと桂ふらちまもり
 松ふゆいあやうかかれ乃み月うふ
 み月るよよこれちりのいくさふ
 ちうけのほゆりあつ初乃月
 ゆつちよのふくちる月夜う那

長茅 于當 魚秋 大坂 五寅 素葉

周々島 塙半

伊奈 坂を

五よふれいあもあしあけうんこま
 秋ちのよましくにくむことり
 くのあふんそらうあれ塙半
 あさうは乃二まはのけうかろち
 けし井つうさうり連らるながり
 ちうけいあけいあもするも念の子
 あまや坂まきまらるち乃うる

桐栖 六悟 呂理 入素 代自徳 斗取

經夜 夏月

あまのあいあなりふまううのま
 ううあやらり月うもも屋の友

蛭 用 祭 仙市

と神 閑眼

あけやすんあまうりまも眼をひま
 下 壺 祝

清晨帶露

毛のうさふ 水子乃 尾どひく 戸紅ハ
あけく 春よ 良うら ちまうし けうか
一 蕉 雨 草

清風高節

月うけふ どりや ぐりさ けあじう 申
そ 丹 果 とらう ちん ぼく ちん ちん ちん
了 素 葉 因

露凝寒葉

きくく やねと 孝 聖 乃 叶 と 浮し
し 露 に くの けり 月 友 う ぶ
く けり 独 園 乃 ちん と け ちん ちん
切 雲 空 翠 平
其 成 魯 隱 雙 南

五月 夏 乃 下 に けり ちん ちん ちん ちん
其 成 魯 隱

綠蔭連綺

る ん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
柳 蔭 柳 蔭
擗 堂

移竹半凋

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
卓 池 因 瑞 宇 伴

圓枝吟月

ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
白 居

三
五
七
九

十
十一
十二

くみ
州
前

前面寒光

きり
友
長
景
日
友
長
景

享和元秋七月廿五日興行

あ
桂
少
羅
魚
松
大
天
玉
五
葛
橘
嵐
岳
蘭
方

あ
桂
少
羅
魚
松
大
天
玉
五
葛
橘
嵐
岳
蘭
方
あ
桂
少
羅
魚
松
大
天
玉
五
葛
橘
嵐
岳
蘭
方

三
五
七
九

十
十一
十二

空にうららかに月乃あり明
 鏡子乃尾子殿の裾と赤き
 中こあそびやあそびる子
 僧殿の天にまゝらけり
 傘さしうけるあけり
 猿蓑に何となくし
 こころ度ふかき
 白足僧のうららかに
 琵琶をうたへて
 松月乃一舟田のうら
 かな

霜居
 東水
 梅回
 士朗
 五
 汝
 兄
 堂
 老
 江
 准

かれたの夕飯のいささ
 ひさしくお月
 神あるは月乃芒れ
 美若のまをうけ
 我眉乃白くも
 膝小もさ
 ちりひらぬ
 笠乃ちり
 手抑のまき
 まくにま

井良堂輅屋明居水回城

初穂 星夕 盃

ちんねりしはいつのまにわさるゝ
 しのつやふの桐乃木おとけし
 乃くつやふとく入るる天行
 ゆふくれやきつふせうとくあふれら
 せふとく入るる高るる星夕
 秋今宵けし入るる入るる
 世やうへるる月をわさるる盃月
 うゝ盃やうもつ門火のよあし

越巽 滄波 可都里 壺伯 白岡 化鳳 以南 秋國

新良 きんぎょ

つゆの世と舞乃松の枝 士朗
 咲くはら (胡) けふのあしとけ 自染
 ちんねりしはいつのまにわさるゝ 大坂 尺艾
 乃くつやふとく入るる天行 玉胡
 ゆふくれやきつふせうとくあふれら 蛙村
 せふとく入るる高るる星夕 巾着女

蘭菊 秋

香とらふ心ききふをさるる月辰

かくれあよあるけりるいそれり エト 祇徳
 ありあされも月ううとれき サ 琴洲
 へく居まへ御うをりな森の花
 ちきこのり後よろしく候き 李 李岡
 孔けけいやしきたの安ら 高 砂文
 との家よひの形ちりあはれま 卓 卓池
 仲國々流ぬまぐり露のくま 帶 帶珠
 七島とらふ山中ととりのあるよ海の
 りんくうけしたとさしたととこ
 ら乃の結ふつき十とりのけまま
 男の肩にアるかとはゆるもから時よ
 秋乃くは乾く海のなとこ

秋風

好書 北区

あつやまうと心もあきれ風 升 升六
 人乃あひ人のさも好の風 喜 喜年
 秋うまのうひのさの 山 山阜
 みきりせ乃ふきまの香の流るぬ 左 左雀
 ちれ 嵐 嵐素
 危るけの掃ほ 蒼 蒼鈍
 ちふくれ乃けきりおれ 瑞 瑞馬
 凡の尾花とく秋うけ 子 子東
 度ありひきまら 女 女汝

きつらしくは 女隊

霧 夕暮 音杖

秋乃雨の望つらんきりくそ 如東

胡よりふんえくれさる葉吹くま さや女

三井さ乃かゆまのち杖乃隊 祐昌

くわ弁のきさる杖やさしん 橘良

邦よりや衣ふくさる杖乃隊 貞居

うれ乃集あつらうくとはる

そらけぬも不田復よりきさる杖 全

雜

あつらふくさる杖乃集あつらうくとはる 全

あつらふくさる杖乃集あつらうくとはる 一州

ハ秋乃杖さく園くまはれ 文地

くまのくさる杖乃集あつらうくとはる 瓜坊

摘妻やぬいさる杖乃集あつらうくとはる 葛三

そらけぬも不田復よりきさる杖 圃曉

ニ子乃杖乃集あつらうくとはる

かわれりきさる杖乃集あつらうくとはる 梅園

我乃りと抱てさる杖乃集あつらうくとはる 一炊庵

洗きやぬいさる杖乃集あつらうくとはる 冥々

うてさる杖乃集あつらうくとはる 硯静

月

名月やけさう乃まういりむの
ふよひ家乃ひいまふ松乃月
中についそ度る月のゆき松
月そむや花色けけりと拂ひき
のぼる松乃い月乃部一り
くはさくこれけけりけり月
秋松の月松くはけりき
後いもふりけりけり月

享和二の春二月

都真 魚村 壽松 周瑞 魯堂 宇曲 竹有 方明
少は補

三
四
日
集

菴犬集卷之二

百韻

松高し芒に竹をさうり	小庭と鶴乃りおそく十月	響の子れひより歌をうめり	酒りあさとし秋のまをり	胸うけおさるけと山とすく	真着乃り花とくけり風	陣きつりこころ乃月れ	角力乃り津州法都をり	小言りよやうにきこゆる	篇まぬをりれぬ山畑い	移るるをり月夜と逢ふ	これりよとをり童女	ささりよもまねてけり	砂川にりるをり古歌	横くをりるをり花を	野鳩乃り雛のそをり春	子一乃りとをり花を	まをり
野雀	松兄	真堂	岳聆	士朗	蘭涯	桂五	梅向	五道	尤雀	士朗	沢風	石若	野雀	大獲	五道	尤雀	士朗

菴犬集

五

春の歌

二

のこころをよめしき花波山	石光
甲斐入舟のひくつきうやむ	石光
人毎く世の事と持つをり	野雀
何とんよ老ぼんり月と	大蘇
酒くらん馬惚子乃奴とメ有り	五道
ちり見所上四くまの松	九雀
ちりしときく味ある乃の上	石老
あらしをよる之井の侍	似風
月あつき軍乃中のたつたを	大蘇
松は乃味の物ある我丸	野雀
西の里乃丸お平	士
柳乃ものやのこたとりきりて	嵐堂
鳥とよむむ寺に如念梵	天老
暮やうり一雙六とと二人	小汝
お給をしと雪まるけりさる	大阜
魚乃つくとちりも水うとて	方明
火くけのちるぬ膳新の松屋	孤雀
月見よしとあうりし山の上	松光
雁の鳴りとして冬ととり物に	夷堂
をやくしと飛らせぬよさの春	吾輪
うみ乃眉のまきうる梅りあ	士

春の歌

四

ういふもろと民頭目の堂乃ら
 ぬふりつとせし湯ゆらう干
 子にこれいめさきこれ花長そ
 積保さきのみ加歳乃言人
 牧方候く一政くさる梅枕
 気とらるふささくくれゆく
 焼納の御仕守にこそほりて
 赤もふささくや控うれ家
 小娘よ人のおかりにけりるを
 草子もさきさるをさるゆき
 月影く花の指とれ一付て
 法師とらさく雛子に一巻
 強え乃むく一巻さる巻乃丸
 ひささる丸序ふ大多ひさる
 五月雨もゆきと甲斐さる桂三
 百合ふささくゆき換次さる袖
 目にさるる行く小きれ那さり
 破りつゆらさる一乃圍
 ろさるゆきと治院電とゆら也
 新し子さるりもゆき言さる丸

虎堂 虎雀 少少 土胡 五堆 大蘇 東水 湖風 五道 竹習
 大阜 桂五 松兄 少沙 椿壺 羅城 桂五 兼屋 土幼

馬ちよひりろ一ぬらぬてをる
 折手伝ひひくく水何乃月
 口ぬゆる布留れおの木指し
 りれよされそろ各川も音
 法橋の景あまを白の名と去て
 山雲にとちゆる三更乃雨
 畧乃ゆる城れやもよまきり
 けりちりしふるふ月のみ未
 宗ひる鳥ねのちりふうらふ
 湯女の痛言はててえんり
 新古今和歌集に於ての辭の類
 今つゝん遠山は年乃乃庵
 瓢と携るる其ま人もをし

兼屋 魚堂 梅間 士朗 天志 初兄 奥雲 天老 羅城 方明 大阜 岳崎 少女 棋同

養大集巻之三

春

虫胡ハキクハ梅乃チホレガ子
ヤキクハ不花守ウチノ花ハキ
人ノ身ニクハキクハ梅乃チ
梅ノ身ニクハキクハ梅乃チ

士朗
魚堂
舟城
阜地

らんらんハキクハ梅乃チ
荒れ乃チカキクハ梅乃チ
山ノ身ニクハキクハ梅乃チ
山ノ身ニクハキクハ梅乃チ

少女
大阜
豊雅
五道

らんらんハキクハ梅乃チ
らんらんハキクハ梅乃チ
らんらんハキクハ梅乃チ

左雀
新秀

花下飲

らんらんハキクハ梅乃チ
らんらんハキクハ梅乃チ
らんらんハキクハ梅乃チ
らんらんハキクハ梅乃チ

多入
月居
亀梁
湖風
華涯

らんらんハキクハ梅乃チ

宇洋

花乃ふくもゆと逢まけ
吾根久くうら味美の小家
蘆久屋ハ鄰とつりもまらり
叫喚に渡小人をいふるさし

砂大
養乳
干當
吟半

小石れうん又腸ちりき
却るに吟きりて

うきうきとふもふれたり
柔おれたのまらりさるお切ふ
まのあよまふ海る在所う柳
まらう春のふにう雨れやうう
うはそのおいさきり志賀代里

景屋
木容
雨来
寿松
信樹

晴月ちりり夕ぐれお花村らうま
とまきぬ杉のせほ引たりいれ
たかすのまき菴あり正月の
あうらうききりて

世よりれよ薺らうう年一月一移

士明

みやこふれたりて

大佛の雨とてふりまきさ
くさひまのむしきおらうきれ上
あやかしりて板へうらうたれと

全
真義
五喬

あま

あまふまらうらうらまらうら

大橋

うらひその中乃のまやひりし山 五来

梅の香こころ
ぬらりきこころこころ

鳥の折戸に雪れけよけし 由登

うらひやうらひのきき定地る 雲帯

無れままた先ほころり小雪うら 天老

まらやま乃同よころりゆれん 乙二

五身肉の山乃りまし春乃る 石老

くるふれよしきえまゆりけ生か 可考

まれりの日きうらうら春の月 兔門

片空やえる乃月まき茶木鹿 自樂

くらの月あけやまらうらり 自樂

さむくわんまのま凡のこころき 桂五

ふくくる水りくまそ歌入凡 丈九

春風やうれけ先へ隅田川 湖凡

六多乃御重よころり

辻佛の位他はハた乃ころり

みきあらし月れきしころり

しはのほく西方けあそ

そまよふりころりま多人は

にましけころり世をいと

しめゆりころり

たのりれころりしれまけ風 岳輅

ゆらりまころりまころり筑波山 春蟻

海乃大

七

伊勢浦や海乃生りまらぬ
くろく海人よまゝこそしりく時
陽をくけしむらさき舟の
早瀬や想ひきけつりあはれ
鳥塚や城のわがに何もな

頃下乃浦

ゆらゆらまはるる夜更け
ゆらゆらおのゑてくもれまはる
きしゆや多量れ行の雪り降
らふらふり寝ふとくしりき
ちやきとあはるる

佳長
圃曠
石老
野雀
尺艾

大藪
五雄
栗大

清ひらけけけけけけけけけ
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

夢想

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

秋國
希言
野雀

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

九峯
魯隠

夕ぐれと行かろしめてさうり
 青柳よ新緑に舞うけふなり
 心ゆくまじり柳はゆき清くそ
 大空乃ちまふまきれた柳うさ
 約人のあしむ雨れやるらん
 折光音一きうく佇み乃春
 月うさくけく柳のまれば
 之れ月乃ちくも白く柳のふ
 少くの人くくくくくくくくく

左雀 魯堂 黄山 雄詞 周瑞 芳之 招兄 椿堂 推巳 野雀 荒堂

人のあつけく梅さく雪の中
 白梅乃ち七夜さく月あふ
 秋とく人いささく光の初
 望寺

暮井 許凡 大蘇 梅間 少汝

菴犬集卷之四

月ハ流れてもろもれし枯亭
うし手や夜明てもあつたきん
漸壹へつるまきしこま 冒魂
ほしきん峰と打くいそふのま
不ぬ坪 四月八日ハきのよま
此月ハなうきふつあふまきん

騏六
野雀
挂五
嵐外
孔阜
观静

修造乃善園ノ名と白紙の筆
と名つけてあるをわ族くと
通せんともさうしらの門の

度ちと誰そも回らんはきん
ほしきん秘殿乃結いんもまき
わけとまきさうまらよ都ん
秋らよの神よ併くほしきを
うれ花の打つてせととふらぬ
旅人乃望日と鳴うほしきん
村翁乃つしんきん乃世界うふ
翁乃無焚物と行れ庵うん
かこりきくうれハヌウ特母ハ
よより乃あつ翁ほついも
幸けろふやうりま乃月

羅城
丸雀
吐牛
真堂
加津
文松
大阜
壺佐
真二
李園
卓池

りしきまのくろくちあり夏の月
そらふくのうらにねきあそび
さくらんつ(とくくく)き
おろけと掃いぬき風らある
月もゆもくきねる林らふ
草本とくくく

方明くをりてすくくく草本
海くさ松たよきく明光く柳
ゆを

五十鈴川

かくくくく世へすしけれ五十鈴川
すしきや月とくくくく州らるく
野雀

ひめくくくくくく五月あ
五月あうやうをねけく柳うか
白鷺け山よきゆや草月か
まらふうくくくくくく草月か
けあうくく心らくくくくく
蟬ゆやおめ此くくくく小石川
あけやそに表とゆけ竹のあつひか
くくくくくくくくくくく
人乃まてくくくくくくくく

卯月のくくくくく
くくくくくくく

結

うらひも志と暮る日了らる 龍雀

あふ坂山

いさねなき水乃知て来る歳なり 方明

暑き日やとわく掛入る乃砂 松兄

十日より十日よりひなま 青川

自由けくぬゆに乃くほひ 天老

乙の月とるひも不梅る山田 孝岡

道くこに訪も尋てわる田植 椿堂

ゆいそりりたつへい門崎 蘭厓

見く居るはいし月乃かき 喜年

素月と先きく里に清水乃那 素榮

乃く乃印やそくぬい又 全

あしき國のたかり年々 文北

藝者亭

急角くくうりひくく代花 五道

笑そめて月ありは嬰粟の白さ 不明

うや一系貴もほくねうぬ 士朗

道ふれこ二ふふる夏木立 開雙

蛙聞亭

喜乃吟 月夜毎々よ草花
日けくわる所う芒乃けつまう水

士 朗
大 蘇

暮涼ささけ 紅葉んん
あつた 雲いりてけ入

世義寺あり

方 明

とらあちんそとせ 竹らく秋の風
あはれを乃かき 夕たり草花
秋風くし山乃あはれ 小家つふ
庭てきけんを 秋風のゆり乃を

丹 城
一 之
索 榮
か 信

松葉此秋考韻集

又そふまれ下そり 秋乃風
秋風やけふつけも 山 鳥
未志乃耳よさけり 秋の風
秋葉の岸よ流る 月夜水

五 桂
葵 武
ゆ り
八 峯

題美人圖

秋葉の月も水乃けり 小
月れあつたけ 秋も 道うま

真 坐
大 蘓

述懐

秋すきあつた 後らなり
青くハ月もあり 秋を

蕉 雨
斗 瞻

此の山より方り松乃をそく
厚うねえくもあつち旅無か
かりうのや雲吹りく風乃上
晴く下やあつちもまきまの秋

大魯
騏道
其勢
草龍

久田汗野

晴くしてはくく月へあふり
若くすとやを松乃てねえく

應江
大蘆

現山

くくも山へ松乃松乃乃
吹くく風乃中より松乃水
この頃乃雨乃月もきねえ
松乃とてまき居るれいこの松
松乃やきねて清き松乃乃
ひく居る佛も松乃くこの松
天乃川、松の涼すたふり
まり火や行やう下とこと
あつちまきま松乃松乃乃
松乃くこれ松乃く松乃乃
の松あけくまの松乃松乃乃
松乃くくく松乃く松乃乃
寒くくく松乃の松乃乃
松乃乃く目も松乃乃松乃乃

少汝
五道
在
松兄
柳為
士朗
石若
文測
卓池
左雀
素山
升六
道表

醒うもとらる付あ新うら
うらうらあうりあうりあうり
あうらうりあうりあうりあうり

醒う井れあふあふあふあふ
立あうあうあうあうあう
秋乃暮土百屋漢乃漢式
うきききききききききき
兼什書やはきききききき
東水 帶棋 宇曲 兼涯 岳格

田象

秋のらや地も純を人勝乃上 操間

唐犬集卷之六

冬

かゝ麻うけて雪掃るあう那 岳格
お出乃漢よわり麻せしは
くくくきききききききき
秘ゆきやあうあうあうあう
秘雪やあうあうあうあう
くくくきききききききき
今の向う竹の雪ゆた乃さあう
かゝあうあうあうあうあう
雪掃るあうきききききき
方明 士朗 兼彦 海ん 大蘓 蛙團 跡花

山さしやまのまわりを月と雪
まじりて同じよき雪乃横日の中
おろちりへんあてらり雪乃松
まじりておろちりあてらり雪乃松

ふ代う崎う

李甚
六事
左雀

對伊吹山

家門ふささるるかれをし雪乃松
うるまよつとくしあふ青う那
雪乃松雪乃松雪乃松
門さの祖又か下戸をい袖討る

湖風
杉乾
成美
竹有

まゝれてい名と付音小家うの
菴乃夜や南月あふ北うん

五通
蕉雨

岐岨道中

時雨て八月し〜れたいさう軍

野雀

幻住庵う

まゝれ〜や三井寺に隣ぬ田代橋
時あつち土おくまぬの田代橋
あつち〜か月れ〜〜り時あけ
まゝれ〜り時あま〜り小田代橋
山平や七日ま〜り時乃手

观静
少汝
相栖
汝景
宿城
不破冢う

木枯の四方にあゝ系極う卯
月おそー竹枝お啼千鳥
宵くけ波とあゝまゝ鳴らり
夜泊
松ふるき所う頃十よ啼ふも
まればそく人月おれを峰の鴨
水鳥やうらあうても鳴乃海
あゝこれ多吹流けるお家うか
月にたれハ鴨は来てゐる門田お
まろく〜風も枯やうう卯
卯ふおと〜尾花う枯らら
引くりぬまき草は枯葉うふ
か〜そく〜の〜そゐる柳う卯
客舎
あゝ〜まれ尾花はあゝ清々き
傾城ハ後りりらううけらたゑ
人乃子のそけんそまろ新鼓

五道
里桐
了國
雨節
大阜
天雀
天老

木容
雨曉
五道
梁甚
有礎
少冬
李閣
樗堂
竹外

士朗
岷屋
巨峰

花をたのむをりてをこころをき
 空月や犬も力さく門柱
 さりやかくして門まて浪の上
 稻株のうらりぬ冬の月夜ふ
 老の浪れまうくつねや網代守
 折るくーの糸行りしうき梅火小
 炭竈や袋とくくんきあり
 すなでこれ秋波泣たりあふかり
 除却のよこむやこしうむれぬ
 冬ふまむしうーなるこれ小家うね

柯田
 岷山
 東水
 魚坐
 意逸
 梵阿
 魚兆
 長齋
 玉洋
 兆如

見やうと人懐く

くらしい歌なりうとくくく菜家
 可やうのうのうきあも
 春やわくく春

袖につく松葉花を乃松明うふ
 けり壱にけりきつ海の根芥小
 大根曳ありく荒乃らりうて
 冬十日ほふくししううぬの中

松兄
 逸虎
 素亮
 蘭水

散歩

犬の子けおつもろろふ長か
 松風と時乃る友やうて少
 海又ふしとせよ日るあつ所をうふ
 持籠乃ゆや町をれ市の中

梅間
 玉屑
 可炎
 庭甫

けしけしきりともやま山家子
年とくしき身も一日乃曆くま
煤拂と世話くく鳴鳥う那
士朗
山阜
茶屋

享和三亥書

野雀同
五道輯
久蘇

枇杷園門人
五彩堂藏版

